

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
5	長谷川祐司（4）	<p>1. 富士川緑地公園（左岸）河川敷グラウンドの落雷対策について</p> <p>富士市ではこれまで「いつでも・どこでも・いつまでもスポーツは人生のともだち」をキャッチフレーズとして生涯スポーツの推進、人材育成、スポーツ施設等の整備・活用、身近な地域でのスポーツ、富士市のスポーツのアピールを柱に各種施策を展開されてきており、富士市スポーツ推進計画後期計画におきましても基本理念や基本計画など、従来のものを踏襲しながら、国等の計画内容や市民アンケート、これまでの実績などを検証して計画を見直し、さらにスポーツ基本法改正の趣旨を踏まえていくとされております。</p> <p>富士市には富士川緑地公園河川敷という、富士市としてスポーツ振興計画を進めていく上でも、富士市民にとっても富士山の眺望、景観を生かした環境でスポーツのできる大きな財産を保有しております。</p> <p>この富士川緑地公園河川敷グラウンドの整備事業を現在、実施していただいておりますが、そのような中、富士川緑地公園河川敷グラウンドを利用されている方々より今回の整備計画にぜひ落雷対策を検討していただきたいとの声が数多く上がっております。</p> <p>そこでお聞きいたします。</p> <p>(1) 富士市のスポーツ公園、スポーツ施設等への落雷対策は現在、実施されているのかお聞きいたします。</p> <p>(2) 昨年9月13日午前10時30分頃、富士川緑地公園河川敷グラウンド付近で、落雷がありました。幸いグラウンドを利用されていた方々への被害はありませんでしたが、全身にしびれを感じた方もいたとお聞きしています。また、この時は河川敷内の駐車場に駐車していた自動車のアンテナに落雷があり、その周辺に駐車していた自動車7台が走行不能となり、レッカー移動することになったと聞いております。そのうちの数台は廃車になってしまったとのことと落雷の衝撃の大きさを改めて思い知らされました。</p> <p>あわせて、一步間違えれば、大惨事になるおそれもあったことから、利用者の皆様からの要望にもありますように、富士川緑地公園河川敷グラウンド内へ落雷対策を整備事業に合わせて実施していただくことができるのかお聞きいたします。</p> <p>2. 富士市のゼロカーボンシティ宣言に伴う、自動車の電動化促進等の対応策について</p> <p>現在、世界各国で地球温暖化対策として、気温上昇を1.5度に抑えるため、2050年までに実質的な二酸化炭素の排出量をゼロにする必要があるとの特別報告書が提出されました。これに基づき、世界の百数十か国並びに日本も、そして静岡県も脱炭素社会を目指すことになりました。</p> <p>本市も本年4月7日に、「2050年二酸化炭素実質排出ゼロ」</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
5	長谷川祐司（4）	<p>を掲げ、富士市ゼロカーボンシティ宣言が、小長井市長より発表されました。</p> <p>本市が2050年ゼロカーボンシティを実現可能にしていくための分析では、産業、民生（業務・家庭）、運輸、その他で今後の対策を積極的に行うことで達成可能と言われております。</p> <p>そこで、お聞きいたします。</p> <p>(1) 富士市では、今後の対策として、各分野についてどのような積極策を打ち出す計画かをお聞きいたします。</p> <p>(2) 世界的にも、日本の今後の対策計画の中でも、自動車の電動化が挙げられており、2035年には、新車販売は全て電動化にしていくことに加え、2050年には国内を走る自動車全てを電動化していくと言われております。</p> <p>本市は紙産業に加え、自動車産業の裾野も広く多くの市民が働いております。市内では自動車なしでの生活は難しい中で、本市として自動車の電動化を今後どのように進めて行くのか、お考えを伺います。</p> <p>(3) また、災害時や停電時には、電気自動車が蓄電池の代わりとなり非常に役に立つとも言われております。</p> <p>本市の保有している300台以上の車両を2035年から電動化していく場合、2050年までに毎年約20台を電気自動車にしていくこととなりますが、災害時に避難所等でも利用できることを考え、今から少しずつ電動化していくお考えはあるか、お聞きいたします。</p>	市長 及び 担当部長